

エバーノートとの連携サービスを拡大
日経 BP 社のコンテンツを表示、『日経電子版』アプリも機能強化

日本経済新聞社（本社:東京都千代田区、代表取締役社長:岡田直敏）は、インターネット上に文書や写真などを保存・共有するサービスを提供するエバーノート（本社:米国カリフォルニア州レッドウッドシティ、CEO: クリス・オニール）との連携を拡大しました。日経 BP 社（本社:東京都港区、代表取締役社長:長田公平）の4媒体のコンテンツをエバーノート上でキーワードや文脈に沿って表示できるようしたほか、『日本経済新聞 電子版』アプリでも連携機能を利用できるようにいたしました。日経は、「情報を伝える」だけでなく、ビジネスシーンで、より「仕事に使える」ツールとして進化していきます。

日経とエバーノート、双方とも有料会員の方であれば、連携サービスのすべての機能を利用できます。連携拡大を記念して、日経電子版の有料会員の方を対象に、エバーノートの有料サービス『Evernote プレミアム』1年分がご利用いただけるキャンペーンを実施しています(※1)。



◆日経 BP の専門 4 媒体の情報をエバーノート上で表示

日経グループは 2015 年 3 月から、エバーノート上でキーワードや文脈に最適なコンテンツを自動表示する『コンテキスト』機能(※2) に、日経電子版のコンテンツを出しています。このほど、これに加えて日経 BP の専門媒体も表示できるようになりました。対象となるサイトは『日経ビジネスオンライン』(ビジネス情報)、『ITpro』(IT 関連ニュース)、『日経テクノロジーオンライン』(製造業を中心とした技術情報)、『ケンプラッツ』(建築・不動産情報)の 4 つです。コンテキスト機能に、日経電子版に加えて日経 BP による専門情報が表示されることで、自身の考えを補強したり、刺激になったりする情報を、さらに深く、いちいち検索することなく得ることができ、資料を効率的に作成できます。



◆日経電子版アプリもエバーノート連携に対応

この春に大幅にリニューアルし、さらに読みやすいデザインになった日経電子版アプリが、エバーノート連携に対応しました。iOS、Androidともに、利用者がエバーノート内に保存した情報の中から、閲覧中の記事に関連したものを、自動的に電子版上に表示できるようになりました(※3)。例えば、新たな法制度や新製品に関する記事を読んでいる時に、以前に書いた企画のメモや、閲覧した資料が表示されたりすることで、思わぬ発見をすることができます。企業ニュースを閲覧しているときには、エバーノートに蓄積した取引先の名刺や競合の製品情報等のノートが表示され、営業のサポートにもつながります。関連情報は利用者が検索することなく、文脈やキーワードを解析して、自動的に表示されます。こうした機能は使えば使うほど、自分に適した情報を得られるようになります。

注 1:キャンペーンは 2015 年 12 月 17 日まで。3-6 月に実施したキャンペーンでお申し込み頂いた方はご利用いただけません。詳細は <http://www.nikkei.com/r123/evn/> をご参照ください。

注 2:「コンテキスト」とは、エバーノート上でユーザが作成するプレゼンやビジネス文書、アイデアメモなどが書き込まれた「ノート」の内容を分析して、それに関連する他のノートやコンテンツパートナーの情報・記事を自動的に表示する機能のことをいいます。プレミアム会員向けの機能です。

注 3:日経、エバーノート双方の有料会員向けの機能です。

【日本経済新聞社について】

日本経済新聞社は 1876 年以來、約 140 年にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。主力媒体である『日本経済新聞』の発行部数は現在約 270 万部で、国内 61 カ所、海外 36 カ所の取材拠点で 1300 人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。2010 年 3 月に創刊した『日本経済新聞 電子版』の有料会員数は現在 43 万人超、有料・無料登録を合わせて 275 万人になっています (2015 年 7 月時点)。